

平成 30 年 6 月 14 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26350935

研究課題名(和文) 就業に起因する社会経済格差が被扶養家族の健康に与える影響

研究課題名(英文) The influence of socioeconomic disparity caused by employment on the health of workers and their family

研究代表者

錦谷 まりこ (Nishikitani, Mariko)

九州大学・持続可能な社会のための決断科学センター・准教授

研究者番号：40327333

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：雇用者の雇用契約を含む就業形態による健康影響を分析するとともに、雇用者を取り巻く社会経済要因の影響を分析した。公的データおよび関連の調査研究のデータを2次利用し、就業と健康の関連を分析したところ、肥満者割合の高い職業や、非正規雇用による健康格差の小さい職業が明らかになった。なお、収入情報を調整した場合は職業や非正規雇用の影響は小さくなり、社会経済要因の調整により格差が緩和される可能性が示された。

これらの結果は、日本産業衛生学会政策法制度委員会及び日本衛生学会少子化対策WGにおいて「女性労働者」や「少子化」のキーワードとともに執筆し、ガイドラインや提案書を作成するなどアウトリーチを行った。

研究成果の概要(英文)：The health influence of the socioeconomic status as well as the working conditions including employment contract was analyzed. The association between workers' and their family's health and work related factors were assessed by secondarily using public-statistical data and survey data in several relating research area. Some occupations were observed to have higher prevalence of overweight, and less disparity effect on health status of non-regular employment. Further, when adjusting income information, the feature of each health status of occupation tended to be alleviated.

About these influence of non-regular employment on health indicated in this research, we are reporting to the Policy Legal System Committee in Japan Society of Occupational Health, and the Working Group of Birth Rate Declination in The Japanese Society for Hygiene, to make a guideline and proposal concurrently.

研究分野：社会疫学

キーワード：非正規雇用 健康 被扶養家族 女性 子ども 若年労働者 社会関係資本

1. 研究開始当初の背景

今日、日本の就業形態は多様化し、中でも雇
用者を中心とする就業者は産業構造の変化に
より二極化している。いわゆる従来型雇用である
終身雇用・フルタイム勤務の正規雇用者と、期
間雇用もしくは短時間勤務を中心とした非正規
雇用に分けられる。重要なのは、学校教育を終
えたばかりの新卒時に正規雇用のポジションを
得られなかった場合やいったん離職した場合、
その後正規雇用になることが著しく困難なこと
である。一見、流動化が進んだと言われる雇用者
の就業形態は、正規雇用と非正規雇用との間で
双方向的に変化するのではなく、正規雇用から
非正規雇用へという方向へ固定化しており、こ
うした状態が格差社会の一因とも言われている。

正規雇用者に比べて、非正規雇用者及び失
業者(無職含む)の健康指標は劣ることが知られ
ている。先進国では、専門職や管理職等、就業
上の地位が高ければ死亡率が低く、非熟練工
や単純作業従事者の死亡率が高く、就業条件
や社会経済上の地位が健康に強く影響すると
報告されている。また、非正規雇用のような不安
定雇用への転職は、心理的負担が高く、健康状
態が悪化することも報告されている。日本を除く
先進国では主婦も無職として、健康状態が悪い
と認識される。

興味深いのは、現在のところ、日本における
正規雇用者の健康状態は、非正規雇用者のそ
れと比べて横断的には良好であるが、数年間の
健康状態の変化を見た縦断的な研究では非正
規雇用者に比べ大きく悪化傾向を示す点、女性
に至ってはむしろ無職(専業主婦など)の方が健
康状態良好な点である。ここにはいわゆる
Healthy workers effect (労働者健康効果)が見ら
れない、という日本の労働者特有の問題点が含
まれる。日本の正規雇用者の福利経済的な労
働条件は非正規雇用者に比べて良いものの、
長時間労働や過重なノルマや責任が課されるこ
となど、ストレスの強いことに起因する循環器疾

患やメンタルヘルス関連の問題点が指摘される。
それに加え、就業上の身分格差が職場の雰囲気
を悪化させ、正規・非正規に関わらず労働者
全体の健康状態を悪化させている可能性が研
究者らの従前の研究によって示されている。

2. 研究の目的

雇用者の雇用契約を含む就業形態による
健康影響を分析するとともに、雇用者を取り
巻く社会経済要因の影響を分析する。家族の
就業の有無や、本人の職業、保険加入、収入
などを調整し、世帯内で被扶養的立場である
女性や子供とともに健康状態を評価し、雇
用と健康の相互の関連の大きさを明らかに
することを本研究の目的とする。

3. 研究の方法

家族構成など、就業外の生活に関して情報
を持つ国の統計調査を目的外利用申請し、2
次利用として解析する。本研究では世帯及び
構成員を客体として行い、健康・生活習慣と
就労の情報を持つ、国の統計調査である「国
民生活基礎調査」、「国民健康・栄養調査」を
用いた。

また、関連の研究において実施された健康
関係の調査票及び本研究の前に行った質問
調査の結果も利用し、上記の国の統計調査で
は得られない内容に関しては再解析を行っ
た。例えば、健康受療行動の背景に関するも
のや、女性特有の健康に関する詳細な質問等
である。

以上の成果は学会報告、学術論文の他、一
般著書や市民講座を通して格差と健康につ
いて広く啓発する。

4. 研究成果

目的外利用申請して得た国民健康栄養調査のデータから、就業と健康に関連すると予想される項目を抽出し、概要的な分析を試みたところ、男性においては管理的職業従事者、および女性に関しては家事従事者に肥満者が高いことが示され、職業と摂取エネルギーや運動習慣等の関連を見出すことができた。

国民生活基礎調査のデータからは、特に次世代育成期にある若年者を中心とした雇用に焦点を当て、非正規雇用による健康影響について職業的な特徴を検討した。研究仮説では、専門的な知識や技能を備えた雇業者は不安定な身分の非正規雇用であっても健康面の影響が少ない可能性があるとして想定して分析した。その結果、収入状況を調整しない場合は仮説通りであったが、収入情報を調整した場合は職業ごとに健康指標の特徴があるものの、男女でパターンが異なり、健康上問題あるような特徴的な職業パターンは示されなかった。

関連して健康アウトカムと人間関係の評価の関連分析や、世帯や地域等のクラスター情報を含むデータとして、母集団の小さい調査対象データを用いてマルチレベル分析を行い、論文として関連誌へ報告した。また、非正規雇業者の多い女性を対象とし、生物学的な再生産年齢層に焦点を絞り、従前の調査データを用い、勤務間インターバル制度（労働時間外の生活時間）と月経関連の健康指標との関係を検討した結果、インターバル時間が11時間未満と短くなると、月経周期以上の有病率が増加する可能性が示唆され、インターバル時間の短いことと健康不安や健康不満足のリスク増加との関連が示された。

これらの分析研究と並行して、日本産業衛生学会政策法制度委員会及び日本衛生学

会少子化対策WGにおいて「女性労働者」や「少子化」のキーワードとともに非正規雇用の影響に関して執筆し、ガイドラインや提案書を作成するなどアウトリーチを行った。成果については引き続き報告予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 6 件)

Nishikitani M, Nohara Y, Ghosh P, Islam

Maruf R, Ahmed A, Nakashima N.

Improvement of Hemoglobin with Repeated Health Checks Among Women in Bangladesh. *Stud Health Technol Inform*, 216, 975, 2015.

Unihara J, Nishikitani M, Matusmoto K,

Otsuka K, Tsuji I, Ono Y. Association between Social Ties and Life Satisfaction in Quake-affected Communities. *The Japanese Journal of Stress Sciences*, 30(4), 290-305, 2016.

Unihara J, Nishikitani M, Kubota K. Rapport between cancer patients and their physicians is critical for patient satisfaction with treatment decisions. *Journal of Nippon Medical School*, 83(6), 235-247, 2016.

Inoue M, Nishikitani M, Tsurugano S.

Female non-regular workers in Japan: their current status and health. *Ind Health*, 54(6):521-527, 2016.

Nishikitani M, Nakao M, Tsurugano S, Inoue M, Yano E. Relationship between

menstruation status and work conditions in Japan *BioPsychoSocial Medicine*, 11:26:1-8, 2017.

錦谷まりこ、井上まり子、鶴ヶ野しのぶ: シリーズ: 学術研究からの少子化対策—日本衛生学会からの提言に向けて「少子化社会における非正規雇用と結婚、妊娠・出産、育児」日本衛生学雑誌 (印刷中)

〔学会発表〕(計 8 件)

錦谷まりこ、鶴ヶ野しのぶ、井上まり子、矢野栄二: 我が国における職業と肥満の関係について. 第 88 回日本産業衛生学会、大阪、2015 年 5 月。(産業衛生学雑誌, 57:414, 2015.)

錦谷まりこ. 平成 27 年 4 月 第 29 回日本医学会総会(京都) 産業医セッション シンポジウム(座長: 石竹達也)の講演者として「非正規雇用が雇用者全体へ与える影響」を講演 (第 29 回日本医学会総会 2015 関西 学術講演要旨 p228)

有吉美恵、錦谷まりこ: 非正規雇用者のメンタルヘルスと職業特徴、日本社会心理学会第 57 回大会、兵庫、2016 年 9 月-17-18 日

Nishikitani M. Workers with precarious employment in Japan. Sep 16 - 19, 2016. Workers with precarious employment in Japan at Symposium 11 Decent work: reaching the vulnerable population in the working place (Chairs: Fongsatitkul P, Thurugano S), as an invited speaker. 48th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health Conference (Tokyo). (Program Book of 48th APARCPH p73, Abstract p61)

錦谷まりこ、有吉美恵、鶴ヶ野しのぶ、井上まり子、福田吉治、矢野栄二: 非正規雇用者の健康状態と職業特徴: 国民生活基礎調査より. 第 90 回日本産業衛生学会、東京、2017 年 5 月。(産業衛生学雑誌, 59:472, 2017.)

錦谷まりこ メインシンポジウム 2: 健康格差—職域における社会的処方の可能性— 第 91 回日本産業衛生学会、熊本、2018 年 5 月.

錦谷まりこ 政策法制度委員会主催フォーラム. 女性労働者の健康確保を支援するために(学会からの提言): 第 1 部 3. 雇用形態と女性労働者の健康の紹介 第 91 回日本産業衛生学会、熊本、2018 年 5 月.

錦谷まりこ 非正規雇用研究会(自由集会). ILO 報告 Non-standard employment around the world に見る女性、若年者、移民における非標準雇用について(第 3 章の紹介) 第 91 回日本産業衛生学会、熊本、2018 年 5 月.

〔図書〕(計 8 件)

錦谷まりこ (非正規雇用ワーキンググループメンバーとして). 非正規雇用と健康: 現状分析と今後のモニタリングおよび対策の方向性. 公衆衛生モニタリング・レポート委員会(第 2 期)報告書 (P61-70), 日本公衆衛生学会, 東京, 2014 年 8 月.

錦谷まりこ 連載(第 5 回)健康から考える非正規雇用の課題と対策「非正規雇用の多様性: 非正規雇用が女性労働者にもたらす健康影響」産業衛生学雑誌 59(5):253-257, 2015.

錦谷まりこ 特集 第 20 回日本女性心身医学会研修会報告「女性の労働をめぐる問題と心身不調」. 女性心身医学 20(2):161-166, 2015.

河原克雅、下浜孝郎、錦谷まりこ: 肥満と腎臓—血行動態の異常と腎障害 腎と透析, 78(4), 507-512, 2015.

錦谷まりこ 「医学・健康分野の考える決断科学 決断科学 創刊号: 28-34, 2016.

錦谷まりこ 「Unwillingness Employment Status and Health among Highly Educated Women」ポリモルフィア 創刊号: 4-29,

2016.

錦谷まりこ 特集:健康格差を問う「女性の非正規雇用による就業と経済的問題の関わる健康影響」,労働の科学 71(4):14-17, 2016.

錦谷まりこ: コラム 女性研究者のキャリア形成. 働く女性のストレスとメンタルヘルスケア、創元社(丸山総一郎(編)) 2017年1月(p299-303).

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

錦谷 まりこ (NISHIKITANI Mariko)
九州大学・持続可能な社会のための決断科学
センター・准教授
研究者番号: 40327333

(2)研究分担者

井上 まり子 (INOUE Mariko)
帝京大学大学院・公衆衛生学研究科・准教授
研究者番号: 20508048

鶴ヶ野 しのぶ (TSURUGANO Shinobu)
電気通信大学・保健管理センター・准教授
研究者番号: 10359630

矢野 栄二 (YANO Eiji)
帝京大学大学院・公衆衛生学研究科・教授
研究者番号: 50114690

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

なし